



院長
真崎 雅和

Dr.米谷&真崎のレレ講座

患話休題

かんわきゅうだい

38



加齢に伴う難聴

2014年のWHOの統計によると、日本の男女平均寿命は84歳であり、日本が世界第一位の長寿国でした(男女別では、男性80歳で世界第5位、女性87歳で世界第一位)。世界一の長寿国であるのは喜ばしいことですが、超高齢化社会となることでさまざまな社会問題が生じてくるのも避けられない現実です。耳鼻科医が取り組むべき問題のひとつに、加齢に伴う難聴への対策があります。進行の程度には個人差がありますが、耳の病気がなくても加齢に伴う難聴は、誰にでも起こりうる現象です。

加齢による聴力低下は30代ころから起こり始めますが、まだ軽度であるため日常生活ではほとんど気づきません。一般的には60歳ころから聞こえの悪さを自覚することが多くなっています。最近の統計では、65歳以上の難聴者は約1500万人に上ると推計されています。

加齢に伴う難聴には電子音などの高音域から聞こえが悪くなってくる、左右が同じように悪くなるなどの特徴に加え、言葉の聞き取りが悪くなるという問題があります。そのため「早口で話されると聞き取れない」、「静かなところで良いが、騒がしいところでは聞き取れない」という症状が現れ、やがて他人との会話がストレスになり、結果的に「社会からの孤立化」につ

ながる可能性が
あります。また、
他人とのコミュニ
ケーションが減る
ことで脳の刺激
が少なくなり、認
知症の進行を早め
る可能性も指摘されています。加齢による難聴は、単なる聴力低下の問題としてではなく、高齢者の社会的な活動にも大きな影響を及ぼす可能性があると考える必要があります。

残念ながら、現在の医療では加齢に伴う難聴を予防する有効な治療法は確立されておらず、進行した難聴に対しては補聴器を装着することが一般的です。しかし、難聴の質や程度、補聴器に期待する効果は個人によって違うため、一度の調整で満足できるレベルに達することは困難です。丁寧な調整を行いながら補聴器を使用した環境に慣れていくことが大切です。高価な補聴器を購入したにもかかわらず、不快感のために結局使用しなくなったということがないようにしなければなりません。難聴による日常生活や社会活動の質の低下を防ぐことは、超高齢化社会となった日本の耳鼻科医に課せられた重要な使命です。



診察時間が近づいたことをお知らせする

約30分前
メールサービスを

ご利用ください。
ご希望の方はメルアドを受付へ!!



急患 随時受付

診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
午前 8:30~12:00	○	○	○	○	○	○	休診
午後 3:00~6:30	○	○	○	休診	○	△ 3:00~4:00	休診

真崎耳鼻咽喉科医院

TEL.018-845-0234 FAX.018-847-1321
秋田市土崎港中央6-8-3